

ひまわり学級（特別支援）学習指導案

奈良市立東登美ヶ丘小学校 軽澤 照文 小山 大樹
青木 美香 井久保 文音
久保 秀子 福場 理恵
瀬間 紗代子

1. 単元名 「東登美 50 周年 ひまわりガーデンにさつまいもを植えよう」

2. 単元の目標

知識・技能	・さつまいもづくりについて調べることで、土づくりの大切さや土には生き物が関係していること、大量に出るさつまいもづるの活用方法など自分たちの生活が環境に深いかわりがあることについて理解できる。
思考・判断・表現	・自分たちの生活を見直し、自分たちのできることを考え、持続可能な社会につながる方法を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・さつまいもに関心を持ち、自分たちができることを問い直し、実践する。

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、ひまわりガーデンにおけるさつまいもを植える活動を通じて、土づくりの大切さや生き物との関わり、つるの活用方法等の視点から、持続可能な社会につながる方法を考える学習である。

この単元で大切にしたいのは、「自分たちで食べる食べ物を自分たちで育てる」という姿勢である。「育てる」といっても、さつまいもを植え、収穫に至るまでには様々なプロセスがある。その過程で、児童は、自然や生き物と出会う。そして、自分たちに身近な「さつまいも」を出発点に持続可能な社会をつくっていくために、自分たちができることは何かを考えることができる単元構成とした。指導に当たっては、体験的な活動を多く取り入れ、児童どうしが「みつめる」、「しらべる」、「ふかめる」、「ひろげる」の各段階で、コミュニケーションをとることができるような場面設定を行いたい。

本単元は、「自立活動」として取り扱う。これは、特別支援学校等において独自に置かれる領域で、小・中学校特別支援学級においても、学習指導要領において、教育課程に位置付け、取り入れることが定められている。その目標は、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」ことである。〔『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』〕本学級に在籍する児童は、発達段階も障がいの程度も十人十色である。本学級の目標として「自立を目指し、生きるための基礎的な力を身につける」を掲げているが、自立活動の指導を通じて、自立をめざし、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする姿勢を養いたい。

自立活動の内容は、6つの区分（「健康の保持」、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「環境の把握」、「身体の動き」、「コミュニケーション」）とそれを細分化した27項目から構成される。本単元では、そのうち、「人間関係の形成」、「身体の動き」、「コミュニケーション」の各項目を相互に関連させて取り扱う。指導に際しては、先述の3つの項目を念頭に置き、以下のような指導を行いたい。「人間関係の形成」では、集団参加の基盤を培う視点から、自他の理解を深めたり、対人関係を円滑にするために必要な技能を養うことができる指導を行う。「身体の動き」では、学習活動の様々な場面に際して、必要となる、「立つ」、「しゃがむ」、「つかむ」、「はさみの使用」等といった手先の^{こうちせい}巧緻性や目と手の^{きょうおう}協応についての指導を行う。「コミュニケーション」では、場や相手、状況に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする視点から、学習活動

の様々な場面で自分のやりたいことやしたいこと、相手にしてほしいこと等自分の考えや意見、要求を適切に伝えることができるような指導を行う。

(2) 児童観

ひまわり学級は、4学級(「自閉症・情緒障害学級」(16名)、「知的障害学級」(5名)、「肢体不自由学級」(1名)、「病弱・身体虚弱学級」(1名))あり、23名の児童が在籍している。

生活面や学習面における課題は、個々に様々であるため、多くの時間を交流学級で過ごす児童もいれば、一日の大半をひまわり学級で過ごす児童もいる。学びへのアプローチ方法は、児童それぞれで異なるものの、ひまわり学級の教育の目標とする「自立と社会参加」を目指し、日々、個別での学びと集団での学びを積み重ねている。

在籍児童が集まって活動する時間を合同学習として設定し、自立活動や生活単元学習に取り組んでいる。合同学習では、リラックスした雰囲気の中で安心して自分らしくふるまえる場で集団として和気あいあいと学習に取り組んでいる。

(3) 指導観

指導にあたり、「みつめる」、「しらべる」、「ふかめる」、「ひろげる」の段階に分けて、考えてみたい。

第一に「みつめる」である。この段階では「東登美50周年 ひまわりガーデンにさつまいもを植えよう。」という発問を設定し、さつまいもを植えるにあたり、どうしていきたいかを考えさせる。「さつまいも」というワードから形や大きさ、料理…などさまざまな視点からさつまいもについてとらえさせたい。児童は、さつまいもというと、「食べるもの」という視点が大半であると考えられる。「しらべる」につなげるために、児童から「いものつる」という言葉を引き出すよう、声掛けを行っていく。

第二に「しらべる」である。この段階では「さつまいもについて調べてみよう。」という発問を設定し、さつまいもについていろいろな視点から迫っていく。児童の発達段階等に応じて、植物図鑑や理科の教科書、タブレット等も活用しながら、さつまいもの「つる」のもつさまざまな「顔」(長いこと、たくさんとれること、アク抜きをすると食用になること、埋めると栄養になること、発電として利用されていること等)を調べる。教師は、児童の多様な意見を尊重するとともに、それらを引き出せるような声掛けを積極的に行っていく。

第三に「ふかめる」である。この段階では「自分たちでできるさつまいものリサイクルを考えよう。」という発問を設定し、さつまいもから一歩進めて「自分たちでできることは何か」を考えさせる。広告用紙でのごみ箱づくりや牛乳パックの活用等、自分たちができる範囲でできることを考えさせる。ここでは、「さつまいもでリースを作りたい」という意見を引き出させるために、前時の「つる」をキーワードに考えを広げさせていく。

第四に「ひろげる」である。この段階では「学校や家、地域で環境をよくするためにできることを考えよう。」という発問を設定し、「ふかめる」をさらに発展させて、さつまいもに限らず、「自分のまわりで環境をよくするためにできることは何か」を考えさせる。学校での学びを地域や家庭にまで広げ、日常生活において自分たちができることを考えさせる。ここでは、導入で「自分たちができること」を考えるきっかけづくりとして「KYOTO SDGs:最近よく聞くSDGs 篇」(CM)を視聴する。動画視聴を通して、自分たちが日常生活でできそうなアクションを見つけさせたい。そして、ごみの分別やエコバックの使用、給食をできるだけ完食等、「ちょっとしたこと」を普段の自分の行動にプラスすることで、持続可能な社会づくりにつながるのだという実感を持たせ、価値観の変革につなげさせたい。

(4) ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)	相互性…おいしいさつまいもをつくるためには、土づくりが大切で、その土には生き物が関係していることを理解する。
本学習で育てたい ESD の資質・能力	[クリティカルシンキング] さつまいものつるの活用方法から、いろいろなリサイクルの大切さについて考え、家でも行動する。 [コミュニケーション力] さつまいもを育てることにおいて、児童どうしで「みつめる」、「しらべる」、「ふかめる」、「ひろげる」の各段階で一緒に行動することができる。
本学習で変容を促す ESD の価値観	○世代間の公正 自分の世代だけでなく、自分たちの食べ物を自分たちで育てること、リサイクルを未来へつないでいくことを考え、行動する。 ○自然環境・生態系の保全 自然環境の大切さから、自分たちができることを実践する。
達成が期待される SDG s	「目標 12 生産と消費」

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① さつまいもを作るうえで、土づくりが大切で生き物も関係していることを理解している。 ② さつまいもづるの活用等から、自分たちの生活が環境に深いかわりがあることを理解している。	① 自分たちの生活を見直し、自分たちのできることを考え、適切に表現している。	① さつまいもに関心を持ち、自分たちができることを実践している。

5. 単元の指導計画 (全 14 時間)

次	主な学習活動	学習への支援 (・)	評価 (◎) 備考 (・)
1 2	○さつまいもやさつまいもの植え方を知る。さつまいもができたなら、何がしたいか話し合う。 ○さつまいもの苗を植える。水をやる。	・さつまいもについて知っていることを言わせる。 ・みんなでおいしく食べたい、家族にプレゼントしたいと考え、大切に育てていこうという思いを持てるようにする。 ・さつまいもを植える際、土や土の中に生きている生き物にも目を向けられるように声掛けをする。	◎力を合わせてさつまいもを植えているか。 ◎「立つ」「しゃがむ」「つかむ」「掘る」など、植える動作ができていないか。 ア① ウ①
3 4	○さつまいもについて、本やタブレットを使って調べている。 ○さつまいもについて調べたこ	・つるにも目を向けさせる。 ・おいしいさつまいもを作るためには、栄養がある土が必要であることに気付けるようにする。	◎自分の知りたいことを調べる方法がわかり、適切に調べているか。 ◎友だちの発表をしっかりと

	<p>とを友だちに話す。</p> <p>○さつまいも発電について知り、さつまいもやさつまいものつるがリサイクルできることを知る。</p> <p>○自分達でできるさつまいものリサイクルを考える。</p>		<p>り聞いているか。</p> <p>ア①②</p> <p>ウ①</p>
5 6 7 8 9 10	<p>○芋ほりをして、さつまいもを収穫する。</p> <p>○さつまいものつるを丸めてリースにして乾燥させる。</p> <p>○さつまいもを調理してもらって食べる。</p> <p>○さつまいもをプレゼントする時に添える手紙を書く。</p> <p>○さつまいものつるでリースを作るために、校庭で木の実や落ち葉を集める、</p> <p>○リースに飾り付けをする。(本時)</p>	<p>・さつまいもだけでなく、土やその中に生きる生き物にも感謝の気持ちが持てるよう目を向けさせる。</p> <p>・自分たちで作ったものをおいしく食べる。残さずに食べることで食品ロスを無くすことになることに気付かせる。</p> <p>・手紙を書く際、手紙やプレゼントをもらう相手のことを考えて書けるようにする。</p> <p>・校庭にはどんな木があるか知らせる。</p>	<p>◎力を合わせてさつまいもを収穫しているか。</p> <p>◎「立つ」「しゃがむ」「つかむ」「掘る」など、芋ほりの動作ができているか。</p> <p>◎ビニールたいをねじる動作ができているか。</p> <p>◎相手が喜ぶ手紙になっているか。</p> <p>ア②</p> <p>イ①</p> <p>ウ①</p> <p>◎ボンドを使って飾りを付ける動作ができているか。</p>
11 12 13 14	<p>○「自分たちができること」を考えるきっかけづくりとして「KYOTO SDGs: 最近よく聞くSDGs 篇」(CM)を視聴する。</p> <p>○さつまいも以外のリサイクルについて、自分たちができることを考える。</p> <p>・牛乳パックで作品を作る。</p> <p>・広告用紙でゴミ袋を作る。</p> <p>・水やりにペットボトルを使っていた。</p> <p>・エコバックを使う。</p> <p>・ごみの分別をする。</p> <p>・給食を完食する。</p> <p>○考えたことを実行する。</p> <p>・広告用紙で袋作り→プレゼントのさつまいもを入れる。</p> <p>・さつまいものつるのリースを飾る。</p> <p>・考えた「自分たちができること」を紙に書いて掲示する。</p>	<p>・自分達が実際にできることに目を向けさせる。</p> <p>・CM 視聴を通して、自分たちにもできそうなアクションがないかを考えさせる。</p>	<p>◎友だちの意見をしっかり聞き、受け入れながら話し合えているか。</p> <p>ア②</p> <p>イ①</p> <p>ウ①</p>

6. 本時について（8/14：「みんなで作ったさつまいも」）

（1）本時の目標

・さつまいものつるを使ってリースをつくりあげ、よさを認め合おう。

（2）本時の展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	準 備 物
は じ め	1 始まりの会（日直が司会） ①始まりの合図 ②あいさつ ③今日の学習の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ自分たちで進めることができるようにする。 ・今までの活動を想起させ、楽しく活動しようとする気持ちを持たせる。 ・落ち着いて聞けるように個別に声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会用カード
活 動 す る	2 今日の学習内容の確認 ・さつまいものリースを制作する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく制作する。 ・根気強く制作する。 ・ていねいにしあげる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと一緒に、楽しく活動したいという意欲を持たせる。 ・根気よく最後まで仕上げるように声掛けや支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さつまいものつるの輪 ・飾りつけの材料 ・のり ・ボンド
評 価 す る	3 友だちの作品の良さを認め合う ・できあがった作品を紹介して、良いと思うところを発表する。 ・あわせて、自分の作品の良いところを友だちに評価してもらおう。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの作品の良さを認めながら、自分の作品の良さも認め、達成感や成就感を味わえるようにする。 	

7. 成果と課題

（1）成果

さつまいもを育てるという活動は、児童たちにとって興味をもって意欲的に取り組める授業であった。土づくりの大切さを学び、ひまわり学級児童間のコミュニケーションをさらに深めることができた。

さつまいものつるを使ってのリースづくりでは、校庭にあるドングリや木の実を使って飾りつけをした。身近なものが材料になるというアップサイクルの発見や喜びがあったと思う。

牛乳パックや新聞紙等の身近なものを使って自分たちができること（牛乳パックの家、新聞紙のごみ袋、SDGsカルタなど）にも発展させることができた。

（2）課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、合同学習の時間を確保することがなかなか難しかった。その中で土と生き物の関係を調べる時間が少なかったと思う。

合同学習を楽しみにしている児童が多く、年間授業計画をその都度見なおす必要がある。

単元構想図

